



ごあいさつ

理事長 **小池 貞志**

平素は飯田信用金庫をご愛顧たまわり、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

みなさまがたに当金庫の業績をより良くご理解いただくため、今年も「HOTLINE 2019」を作成いたしました。本冊子をご高覧いただき、私どもの現在の姿をご賢察いただければ幸いです。

さて、平成30年度の日本経済は、企業収益が過去最高を記録するとともに、雇用・所得環境の改善により個人消費も持ち直しが続くなど、前年度に引き続き緩やかな回復基調となりました。しかし昨年秋以降、世界経済が減速に転じ、輸出・生産の減少が鮮明になるなど、景気後退局面入りの可能性が出てきたことに加え、本年10月には消費税の増税も予定されており、今後の見通しについては不透明な状況にあります。また、金融機関を取り巻く環境は、日本銀行によるマイナス金利政策の継続により、利息収入が減少するなど悪化傾向にあります。

一方、当地域の経済情勢につきましては、徐々に改善の兆しが見えているものの、都市部とは違い、まだまだ厳しい状況が続いております。さらに、今後の人口減少と高齢化の進展が懸念されておりますが、当地域においては、2027年のリニア中央新幹線開業に向けて工事が本格化するとともに、三遠南信自動車道の工事も着実に進展が見られるなど、今後の発展に対する期待も高まっております。

このような経済情勢の中、平成30年度は第7次中期経営計画の2年目として、「深化と進化～PDCAサイクルの確立～」をメインテーマとし、「営業店収益力の強化」をサブ・テーマに掲げ、特に貸出金の増強や役務取引収益の増加などの施策に取り組みました。また、昨年6月には、当金庫では初めてとなる10年間の長期経営計画「架け橋2028」を策定いたしました。今後さらに不透明感が高まる金融環境の中において、当金庫が10年後も輝く信用金庫であり続けるために、長期的視点に立った取り組みを始めております。

平成30年度の計数目標としましては、①預金平均残高60億円増加、②貸出金平均残高20億円増加、③当期純利益15億円を掲げ取り組みました。目標に対する実績としましては、預金は堅調に推移し増加目標を達成するとともに、貸出金についても重点施策として積極的に取り組んだ結果、増加目標を達成することができました。また収益目標につきましても、金利低下に伴い利息収入が減少するなど厳しい収益環境の中ではありますが、信用コストが繰入から戻入に転じたこともあり、当期純利益は前期比増益となるとともに目標を達成することができました。

なお、平成30年度決算状況の詳細につきましては本誌に掲載しておりますが、経常利益は前期比7億28百万円増加して31億41百万円となり、当期純利益は前期比9億20百万円増加して24億89百万円となりました。

さて、このたび当金庫では令和元年度からの新3カ年計画として第8次中期経営計画「架け橋2028 First Stage ～改革へのチャレンジ～」を策定いたしました。この初年度である令和元年度は、事業計画のテーマを「改革元年～輝く未来へ向かって～」と掲げ、特に重点課題としている「業務改革」の遂行に取り組むことといたします。この結果創出される時間・人員・資金等の経営資源を付加価値の高い分野に活用することにより、組織全体の生産性の向上を図り、企業体力の強化に結び付けてまいります。金融機関を取り巻く環境は今後も厳しくなることが予想されますが、中期経営計画の達成に向け、令和元年度も役職員一丸となりさまざまな課題に積極的に取り組んでまいります。

地域のみなさまには、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。